

# 雪遊び～カードあれこれ～

ふゆをたのしもう

名まえ

すべりたいAグループ

2月17日 入よう日

やったこと・おもったこと

すべりたいグループはすべりたい  
を作ります。さいしややった  
ときは、むずかしかったけど  
でんてんつくしつんたん、さいに  
は、かんたんになりました。あたしは、  
へいたいをフスラヤをにこびます。

つぎにやりたいこと

つぎに、あたしは、じゃんぶだ  
いをつくりたいです。

気付き！

雪を使った作業ばかりに時間を使うのではなく、自分たちの作った「遊びのお店」でたっぷり遊ぶことも大切な活動です。ある程度進んだ時に、試して遊ぶ時間をつくることで、更なる工夫に向かうことができます。

また、時には他のグループにも遊びに行く時間をつくることで、子どもは、「自分たちのお店との違い」や「楽しさの秘密」を見付けます。それが、次の雪遊びへの意欲となっていきます。

じぶんのおみせ



すべりたいBグループ

おともだちがすべってくれて  
たのしがたよえかあかがとじょて  
りわれてじぶんもうれしくなり  
ました。

自分のお店で楽しんでもらったこともうれしいことですし、他の友達から掛けてもらった言葉が次の雪遊びへのエネルギーとなります。

たっぷり遊んだ後に活動を振り返りカードにかくと、一人一人の気持ちや次への意欲を知ることができます。

みつけたよ！

あゆもげんきに②

そとあそびしたよ！

2

2

さくら



すごく小さか、たゆまじまが  
す。ごく大きくなったので  
びっくりしました。

雪がくっつくとき大きくなることに驚いています。

前に雪遊びした時と気温、雪質などを比較するような言葉掛けをすると、より気づきを引き出すことができます。

みつけたよ！

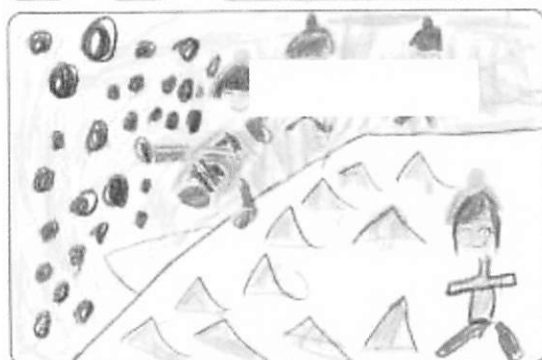
あゆもげんきに②

又あそびをしたよ。

2

28

さくら



ともたち4人でたのしくあそんで  
き、とけち4人できをつないでたのしく  
あそびたよ。

友達と体を使って遊ぶことは、子どもの数が昔に比べて少ない現代では大切な経験です。

尻滑りで友達とつながって滑ると思わず歓声が上がります。

## あるある NG!

雪像づくりをする際、スコップやそり、バケツなどを教師が「持っておいで。」、あるいは「持ってきていいよ。」と事前に言っていないでしょうか。

教師は、これから行う活動を予想して、何が必要か分かっています。ですから、つつい先指示してしまったり、持ってくる物を伝えてしまったりしがちです。実際に一度活動し、子どもたちから「〇〇を使いたい。」「△△を持ってきてよいですか？」と言われてからでも遅くはありません。